

令和5年度美園小学校避難所運営委員会 会議録

開催日時：令和5年7月8日（土）10：00～11：30

開催場所：美園小学校 地域交流スペース

出席者：浦和野台自治会 内田運営リーダー 佐藤委員 菅委員 菊地委員

大門美園自治会 綾部委員 岩澤委員 山田委員

大門南自治会 玉木委員

美園小学校 佐藤校長 岩田教頭 高橋教頭

緑区総務課 吉田 青木

避難所担当職員 高波 石野 梶本 篠山

（下野田自治協力会 欠席）

1. 開会

2. あいさつ

内田運営リーダー、美園小学校佐藤校長より挨拶

3. 自己紹介

各運営委員、美園小学校職員、避難所担当職員、緑区総務課職員から自己紹介

4. 議題

（1）避難所の開設基準、6月2日からの大雨による避難所の開設状況

市内のいずれかで震度5強以上の地震が観測された場合、全避難所が一斉開設となるため、避難所運営委員は美園小学校に自主参集をお願いする。（避難所運営マニュアル p.7）ただし、美園小学校は洪水時の浸水想定区域内のため、水害時は原則として避難所の開設はしない。避難が必要な場合、近隣の美園南中学校・大門小学校・美園中学校などが避難先となる。（避難所運営マニュアル p.43）

6月2日からの大雨では、土砂災害の危険性が高まり、6月3日1時45分、土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている区域に、警戒レベル4の避難指示が発令された。（避難所運営マニュアル p.41）近隣では、緑区大門の一部地域が同区域に指定されており、21世帯62名の方に避難指示が発令され、指定避難所となっている美園南中学校が開設された。同日11時30分頃に避難所は閉鎖となったが、実際に避難された方はいなかった。

【質問事項】

- ・避難指示はどのように対象となる住民に伝わったのか。
→対象となる世帯には連絡先を伺っており、緑区総務課から直接電話で連絡した。
- ・周辺地域も含めた呼びかけは。
→防災無線で周知を行った。
- ・防災無線で実際に市民に伝わるかが重要であり、定期的にテストを行った方がよいと思う。
→市の防災課に要望として伝える。
- ・今回開設された美園南中学校や他の避難所には、自治会の運営委員は参集したのか。
→美園南中学校には自治会長が参集した。他の避難所では、自治会の運営委員は参集していないが、避難所の担当職員と連絡は取り合っていた。
- ・避難者はいなかったとのことだが、今回被害に遭わなかったから次も大丈夫だろうというのが心配である。市としてはどう考えるか。
→市として避難指示は出すが、実際に避難するかどうかは住民の判断というのが基本的な考え方である。強制力はない。

(2) 活動班の編成について

令和4年度は、総務・情報班を浦和野台自治会、救護・環境班を大門美園自治会及び大門南自治会、食料・物資班を下野田自治協力会で編成した。今年度も同様の班編成でよいか。

⇒了承

(3) 避難所運営訓練の内容、スケジュール等

①開催日程 11月11日(土)午前

②開催規模

令和元年度は通常の運営訓練を行い、参加者は75名であった。令和2年度以降はコロナ禍で、運営委員のみで実施した。コロナが5類に引き下げになったこともあり、一般の方も含めて運営訓練を実施するということがよいか。

⇒了承

【質問事項】

- ・子どもにも参加してもらうために、学校から案内はできないのか。
→美園小学校を避難所としている世帯(児童)が一部に限られているため、学校からの呼びかけは難しい。

- ・参加者はいつまでに取りまとめればよいか。
→配布物資の準備があるため、9月末までには取りまとめてほしい。
- ・自治会に加入していない方の中にも防災に関心がある方がいる。市で参加申込みのサイトなどは作れないのか。
→市で参加申込みを受けるとなると、個人情報の関係もあり現時点では難しい。

③訓練内容・スケジュール

参考として、令和元年度及び令和4年度の訓練内容とスケジュールを添付している。令和元年度では、先に運営委員が準備をした上で、一般の方に集まってもらった。その上で、3グループに分かれて説明等を行っていた。一般の方にも参加してもらおうということになれば4年ぶりの開催となるため、訓練内容が多岐にわたると混乱が生じる可能性もある。令和元年度の訓練内容をベースに、基本的な内容を確認してもらおうという流れでよいか。

⇒了承。参加予定人数の規模により、細かい内容については調整する。

5. その他

(1) 5月発生の石川県能登地方（最大震度6強）、千葉県南部（最大震度5強）等の地震時における各自治体の動向（自治会の対応）

大きな地震が続いて発生しており、それを他人事ではなく我々の身に起きたらと考えたときに、避難所の運営や自治会の動きなど参考にしたい。[浦和野台自治会]

→市の防災課に、他の自治体の事例を情報収集してそれを共有する予定はないか確認したところ、市として独自に情報収集する予定はないとの回答であった。国や県から情報提供があった際に、避難所運営の方法などに反映していく見込みである。[緑区総務課]

→直接自治体に確認するなど積極的に情報収集してほしい。[浦和野台自治会]

→市の防災課を通して、可能な限り情報収集に努めていく。[緑区総務課]

(2) 小中学生への防災教育（部活動、クラブ活動など）

地域が抱える課題として、現役世代が多く、日中この地域にいない方が多いということが挙げられる。災害が日中に発生した際に、運営委員が誰も参集できないといったことも想定される。荒川区の事例では中学校に防災部があり、地域の中学生在が避難所運営の際のリーダーになるといった活動が行われている。このような取組みがこの地域でもできないかという想いがあり、市や区としても検討してもらいたい。[大門美園自治会]

→市の防災課に、避難所運営のあり方として、提供いただいた資料を共有し確認したところ、中学生の活用について地域防災の観点からも有効であるとの認識であった。現状としては、運営訓練に学生の参加を勧めていくことや、授業で防災教育を行っているという段階である。市の教育委員会にも荒川区の事例については情報提供を行ったが、よりよい避難所運営のあり方について、防災課として検討を進めていく。[緑区総務課]

(3) 避難所運営委員の皆様から

- ・大規模災害が発生した際に、近隣の大型商業施設から美園小学校に避難して行くことは想定されるのか。市の回答では、商業施設に留まることができない場合には、美園コミュニティセンターへの避難を誘導していくということであったが、当該商業施設の方の話では、災害発生後すぐに地域の避難所へ誘導するということであった。1月に自治会で主催した防災教室では、大規模災害時に公的な支援が1週間全くなかったという事例があるとの話もあった。食料を含め当避難所は大丈夫か心配していたところ、農業を営まれている有志の方が、災害時に備えた炊き出しの活動をしているということを知り、情報提供させていただく。[大門美園自治会]

→発災時に商業施設内に留まることができない場合には、一時滞在施設として美園コミュニティセンターが指定されており、帰宅困難者を受け入れる施設となる。当施設では600人程度を受け入れる想定をしているが、それを超える帰宅困難者がいた場合には、美園小学校や美園南中学校などで受け入れる可能性がある。また、帰宅困難の状態が長期化した場合にも、近隣の避難所で受け入れることとなる。[緑区総務課]

→商業施設からの避難者が先に多く来てしまっていて、地元の方が避難できないことが心配である。東日本大震災の規模で災害が発生した場合、市からすぐに物資の提供を受けられるとは考えにくい。災害時には当該商業施設から市に物資を提供していただけるよう協定が結ばれているが、それは市全体での話であって、地域で物資の提供を受けられる枠組みにはなっていない。今後、地域住民と商業施設で協定が結べるようにしてほしい。[大門美園自治会]

→今後の課題として認識している。[避難所担当職員]

- ・有事の際、学校職員も避難所担当職員もすぐに参集することができない場合、運営リーダーが開設の判断をすることはできるのか。[美園小学校]
- 施設管理者も避難所担当職員も参集できていない場合に、避難所開設は想定されていない。[緑区総務課]
- 時間を要する場合、運営リーダーが避難所を緊急的に開設できるようにして

ほしい。[浦和野台自治会]

→確認の上、共有する。[緑区総務課]

→避難所担当職員も防災倉庫の鍵は持っているが、学校の体育館を開ける鍵は借りていないため、実際に避難所を開設する場合に備えて、学校と調整していく。[避難所担当職員]

・水害時は美園南中学校や大門小学校に避難することとなるので、今後地域連携を図っていった方がいいと思う。[大門南自治会]

→他の避難所の班長とも情報共有を行いながら、防災における地域連携を進めていきたい。[避難所担当職員]

→美園南中学校では水害を想定した訓練を行っているのか。[浦和野台自治会]

→地震を想定して毎年訓練を行っている。基本的に避難した後は、地震も水害時も避難所運営の方法は変わらない。[避難所担当職員]

→水害時は商業施設の立体駐車場の屋上を、近隣住民の自動車の緊急退避場所として使用してよいとの許可をもらっている。[大門美園自治会]

6. 閉会

内田運営リーダーより挨拶